

Y13c 天文学・宇宙物理学のリベラルアーツ教育の疑似科学に対する知見獲得効果について

山崎大 (茨城大学)

発表者は、茨城大学におけるリベラルアーツ科目(自然・環境と人間科目)の一つとして「宇宙論史I,II」を毎年開講している。これらの2つの天文学・宇宙物理学の発展史に関するリベラルアーツ科目は、宇宙に対する人類の捉え方、関連する自然科学がどのように発展し、利用・応用されてきたかを理解することや、宇宙論と周辺の学問の発展を学び、多角的に宇宙に係わる自然科学への幅広い視野を養うことを目的とし、自然科学に関連する科目が苦手でもやってみたいと思う学生も対象としている。これらの2つの授業の内、「宇宙論史II」の最終回では、疑似科学について解説したのち、それまで学んできた宇宙論の発展史の知見をもとに、宇宙や天文に関する疑似科学について紹介している。この最終回の開始時と終了時に疑似科学の知見に関するアンケートを実施し、科学的情報やその情報源への正しい接し方や、疑似的な科学情報の見分け方について、どのように遷移したか調査している。今回は、そのアンケート結果をもとに、リベラルアーツ科目、特に天文学・宇宙物理学に関する教養科目の受講が、疑似科学に対する知見獲得にどのような効果があるか考察した結果を発表する。